

第18回男女共同参画フォーラム

沖縄県医師会 女性医師部会 副部会長 西 由希子



第18回男女共同参画フォーラム プログラム

日時 令和6年4月27日(土)
フォーラム 14時～ 懇親会 18時～
会場 JR ホテルクレメント高松 3階 飛天
主催 日本医師会／担当 香川県医師会

メインテーマ

「超高齢社会に向けての男女共同参画
～人生100年時代における多様な医師の働き方～」

総司会 香川県医師会 理事 香西由美子

開会 香川県医師会副会長 若林 久男
挨拶 日本医師会 会長 松本 吉郎
香川県医師会 会長 久米川 啓
来賓挨拶 香川県知事 池田 豊人

基調講演

座長 香川県医師会 常任理事 大原 昌樹
1.「女性医師を取り巻く諸課題」
講師 前 香川大学 学長、香川大学特命教授
香川大学イノベーションデザイン研究所
所長 筧 善行
2.「フェムテックサービスを活用した、女性の働き方
改革、妊娠期のQOL向上サポートの取り組み事例」
講師 メロディ・インターナショナル株式会社
代表取締役 尾形 優子

報告

1. 日本医師会男女共同参画委員会
日本医師会男女共同参画委員会 委員長 小泉ひろみ
2. 女性医師支援センター事業
日本医師会 常任理事 神村 裕子
休憩 (10分)

シンポジウム

座長 香川県医師会 常任理事 海部久美子
コメンテーター 日本医師会 副会長 角田 徹
1.「若手総合診療医が取り組む次世代の在宅医療」
医療法人社団慈風会在宅診療敬二郎クリニック
院長 西信 俊宏
2.「大学病院勤務医の役割と課題」
香川大学医学部総合診療学講座 講師 石川かおり
3.「眼科医生活 63年を経て今思うこと、
伝えたいこと～超高齢社会に向けて～」
大内胃腸科眼科医院 副院長 大内 通江

総合討論

次期担当県医師会会長挨拶
福島県医師会 会長 佐藤 武寿
閉会 香川県医師会 副会長 若林 久男

2024年4月27日、香川県高松市で第18回男女共同参画フォーラムが開催された。新型コロナウイルスが5類感染症に移行し初のゴールデンウィークということもあるのか、高松の街と同様フォーラム会場も活気づいているように感じられた。

日本医師会会長松本吉郎氏の御挨拶では、人生100年時代誰もが元気で活躍できる社会を医療界も目指したいとの言葉があった。香川県医師会長、香川県知事の御挨拶の後、基調講演が行われた。

基調講演1は、「女性医師を取り巻く諸課題」と題して前香川大学学長、香川大学特命教授、香川大学イノベーションデザイン研究所所長の筧善行氏による御講演であった。医学部における女性差別問題、女性医師の歴史についてのお話の後、ジェンダー平等と医師の働き方改革についての解説、御意見であった。かつてニュースになった医学部入試における性差別をはじめ、日本の女性医師割合は20.4% (2015年)でOECD加盟国中最下位であり、日本の医療界は問題があると言わざるを得ないとのお話であった。女性医師がキャリアを積み重ねる上での最大の障壁は出産・子育てによるキャリアの中断であり、医籍登録後の就業率の特徴的なM字曲線はなかなか解消されない。筧先生が香川大学泌尿器科教授であった頃、初めて女性医師が入局し出産育児を経た。その医師に続いてその後複数の女性医師が入局し、ロールモデルの重要性を実感したとのことであった。医師の労働環境は男女問わず非常に厳しく、子育てしながら働くことは難しい面もある。働き方改革をよい機会として、看護師の特定研修制度やPA

(physician assistant) 制度などで医師の労働の負担を軽減することが必要である。育児のため昼間しか働けないとしても働き方のオプションは用意でき、高齢の医師なども同じであると考えられるとの御意見であった。

基調講演2は、「フェムテックサービスを活用した、女性の働き方改革、妊娠期のQOL向上サポートの取り組み」と題して、香川県を代表する女性起業家であるメロディ・インターナショナル株式会社CEO 尾形優子氏が講演された。フェムテックとは、「female (女性)」 「technology (技術)」を組み合わせたデンマーク出身の女性起業家イダ・ティン氏が使い始めた造語で、女性の健康問題やライフスタイルの課題を解決するために開発されたソフトウェア、診断キットなどの商品やサービスを指す。働く女性の妊娠・出産や更年期ライフイベントに起因する望まない離職などを防ぐため、女性特有の健康課題は女性のみでなく企業や社会全体でともに解決していくアプローチが重要であり、その方策の一つとしてフェムテックの活用が期待されている。

周産期医療では産科医院の減少など医療資源の不足、増加する高齢出産などリスクの増大から社会的ニーズが高く、尾形氏はモバイル分娩監視装置（胎児の心拍と陣痛のモニター装置）と周産期遠隔医療プラットフォームの開発、普及を行っている。日本で開発された分娩監視装置は、日本の世界一低い新生児・母子死亡率に寄与し世界に普及されたが、従来の機器は大型で病院でなければ使用できなかった。モバイルモニターではインターネットにつながればどこでも遠隔モニタリング・妊婦オンライン診療が可能になり、北海道や石川県能登半島など病院や医師が不足する地域、通院が非常に負担となる地域の問題解決の一助になっている。日本以外でもタイやブータンをはじめ現在16か国でも導入されており、今後世界的な規模で周産期医療を支えるツール、システムになりうる。データが集積することでAIによる解析につなげることも検討しているということで、医療過疎地域での有用性が期待される。

続いて、日本医師会男女共同参画委員会からの報告があった。今期の諮問は「超高齢化社会における男女共同参画の推進」であり、委員会でまとめた課題及び解決に向けた答申が報告された。

課題として医療需要の変化、財源不足、患者・医師の高齢化が挙げられ、解決に向けて患者の高齢化に合わせた医療提供体制の構築、医師の労働力確保、国民・医療従事者への啓発が挙げられた。

最後に、3名の先生によるシンポジウムがあった。

シンポジウム1

「若手総合診療医が取り組む次世代の在宅医療」
医療法人社団慈風会

在宅診療 敬二郎クリニック 院長

西信 俊宏 氏

高齢化、急性期病床の不足から在宅医療は今後更に重要な立ち位置を担うと考えられる。在宅医療を維持・推進する上での課題としては、人材（マンパワー）、システム（急変時に対応するための後方支援体制の整備、家族による看護・介護の負担を軽減するサービスの整備）、教育がある。これら課題に対し敬二郎クリニックでは以下に取り組んでおり、在宅医療に限定することなく重要な視点であると感じられた。

言語化：ミッション・ビジョンの作成、組織図の明示。様々な背景を持つ医療者がチームを形成しているため、ミッション・ビジョンを言語化することで視点を統一する。

DX：ITツールの活用 院外にいても業務、コミュニケーションを円滑に行い、帰院後の残業を減らす。

教育：教育機会特に多職種連携教育の重要性、院内・院外への発信。

シンポジウム2

「大学病院勤務医の役割と課題」

香川大学医学部 総合診療学講座 講師

石川 かおり 氏

大学病院の役割として教育研修の場の提供、特定機能病院としての機能、研究がある。大学病院で勤務するメリットは先進的医療ができること、各専門家が揃っていること、研究設備が整っていること、人脈を作りやすいことがあるが、低賃金、業務が多岐にわたる、ベテラン医師が少ないというデメリットがある。現状では役割ごとの医師が在籍するわけではなく、多くを掛け持ちで行っており、マンパワー不足がある。大学が医療人として学びたい・働きたい人が集う魅力的な場所となるよう配慮をお願いしたいとの御意見であった。

シンポジウム 3

「眼科医生活 63 年を経て今思うこと、伝えたいこと～超高齢社会に向けて～」

大内胃腸科眼科医院副 院長

大内 通江 氏

GHQ による農地改革を経験したことから女性として自立することを目標とし、医師を目指したという大先輩のお話であった。今よりはるかに仕事と育児を両立させるために利用できるリソースが少ない中、しなやかに仕事を継続してきた姿には畏敬の念しかない。現在も日常診療に加えて学校医、視覚障害者支援、アイフレイル対策活動などで御活躍されており、人生 100 年時代を前提として新しい生き方、時間の使い方を考えようとのメッセージを発信されていた。大内先生の高い志、学び続ける姿勢、

健康を維持するための努力を見習いたいと感じた。

シンポジウムの後の総合討論では、時間一杯まで会場から多くの質問、コメントが寄せられた。印象に残ったコメントとしては、以下があった。

- ・大学病院の拡充が必要である。
- ・大学病院で女性教員が少ないと女子学生に対しこの科ではやっていくのは難しいのではないかというメッセージを与えかねない。香川大学ではどのような工夫があるか。
- ・女性だからといって教員評価の基準が変わることはないが、特に教育の分野では時間が決まっているので勤務の時間に制限のある女性でも成果を出しやすい面がある。研究者に対する補助員をつけたり、論文英文校正の費用を補助したりという取り組みをしている。
- ・科内のグループでベビーシッターを雇用し、複数人で利用しているという職場もある。
- ・大学のみならず医師会も若い医師から魅力があるように映る努力が必要である。

その他、会場含め各立場から色々なコメントがあり、見方によっては正反対ともとれる意見が出ていたことが印象的で、これが多様性ということであろうと感じた。働き方のオプションを多数用意することで医師の労働力確保や働き方改革への対応につながることを期待する。

【映像配信】第 18 回男女共同参画フォーラムのご案内

日本医師会

動画 URL :

<https://www.med.or.jp/doctor/female/forum/011503.html>

動画の複製や転載等は禁止いたします。



印象記



理事 稲富 仁

第18回男女共同参画フォーラムが香川県高松市で開催された。

メインテーマは目前に迫る「超高齢化社会に向けての男女共同参画～人生100年時代における多様な医師の働き方～」であった。

基調講演は①香川大学前学長である寛善行先生による「女性医師を取り巻く諸問題」。少し前に問題になった医学部入試における女性差別問題に触れ、日本の女性医師割合がOECD加盟国中最下位であること、世界及び日本での最初の女性医師の話など歴史的経緯について、そして、これからのジェンダー平等と医師の働き方改革についての展望や問題点について講演された。②尾形優子 CEOからは働く女性の妊娠・出産や更年期などに起因する離職等を防ぐためのfemale technology(フェムテック)事業について紹介された。新興国・発展途上国や医療過疎地域での安全・安心の出産を担保するためにミャンマーやチェンマイや小樽市などで活用され、現在世界16か国で承認されている。

後半は3人の先生方によるシンポジウムであったが、各々違う立場や視点からの発表であり、いずれも興味深い内容であった。

若手医師を中心に在宅医療を行っているクリニックではスマートフォンやiPadを駆使して次世代の在宅医療の構築に挑戦されている。在宅クラウド式電子カルテhamis、スケジュール管理ツールCrosslog、多職種連携ツールGoogle workspace、院内・院外コミュニケーションツールMedicaicareなどのアプリを活用し幅広く活躍されておりもう少し話を聞きたかった。

香川大学からは教育・研究・診療・医療行政などの役割を担うためのマンパワー確保のために工夫されていること。大学病院や地域の開業医の現状について分析され、これからの超高齢化社会に向けてあるべき姿についてお話しされた。

最後は～眼科医生活63年を経て今思うこと、伝えたいこと～と超高齢化社会到来に向けて締めくくりにして感慨深いお話であった。

昨年は三重県にてこのフォーラムに参加させてもらったが、昨年同様非常にためになる講演内容であり、最後まで居眠りせず飽きずに聞き入ることが出来た。機会あれば是非ご参加ください。

懇親会では四国の美味しい魚がたくさん並び、地元の人もなかなか食べられないという噂の名店の讃岐鯉鮓コーナーもあり大行列が出来ていた。来年は福島県開催予定となっています。再来年は…

